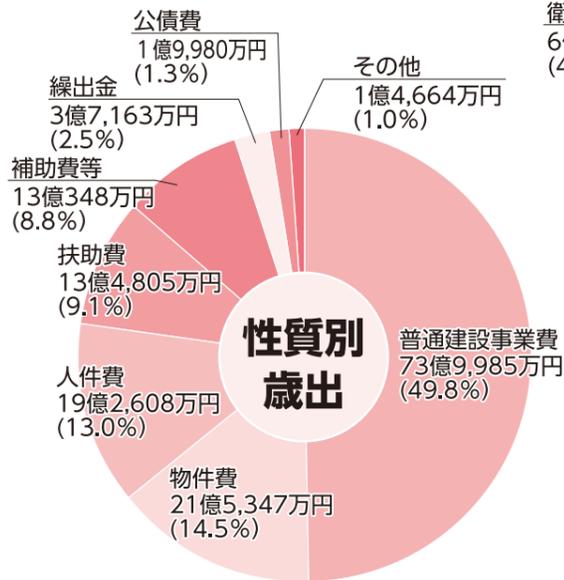


一般会計歳出

性質別歳出

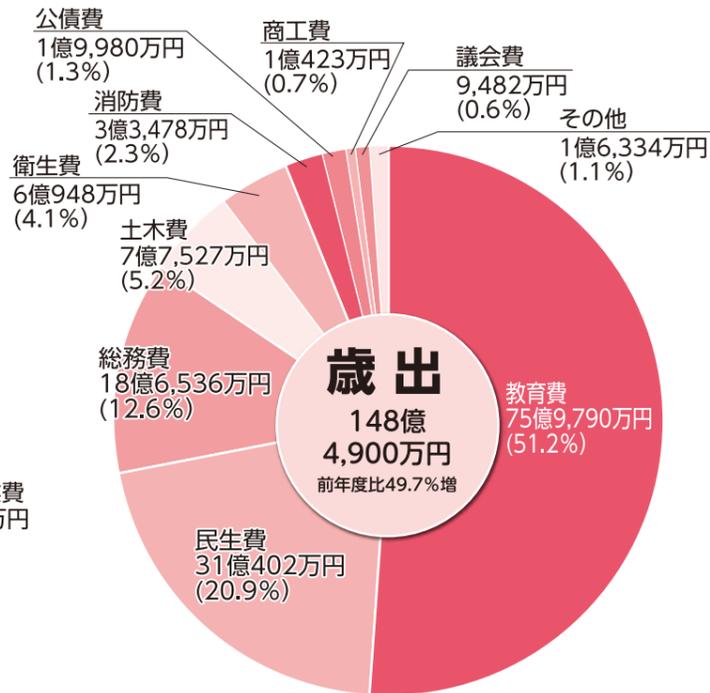
(経費を経済的性質に応じて分類)

決算統計の考え方に基づき性質の区分を一部移動させて計上しています。



目的別歳出

(経費を行政目的に応じて分類)



※ (%)は構成比を示しています

普通建設事業費が増加(前年度比144.3%増)

歳出は、中学校整備事業や地区公民館長寿命化改修事業等に対して、基金や町債を活用しつつ、令和8年度からスタートする第7次川越町総合計画後期基本計画に掲げる事業に対し、重点的に財源を配分しました。

目的別に分類すると、小・中学校、社会教育などに使う教育費が最も多く、75億9,790万円と歳出全体の51.2%を占めています。次に、障害がある方や高齢者への福祉、子育て支援などに使う民生費が31億402万円、戸籍や選挙、職員の人事など全般的な管理事務に使う総務費が18億6,536万円と続きます。

性質別にみると、中学校整備事業や川越幼稚園幼保連携型認定こども園化改修事業等により普通建設事業費が前年度から144.3%増、人件費は4.8%、元利償還金などの公債費が54.7%増となっています。

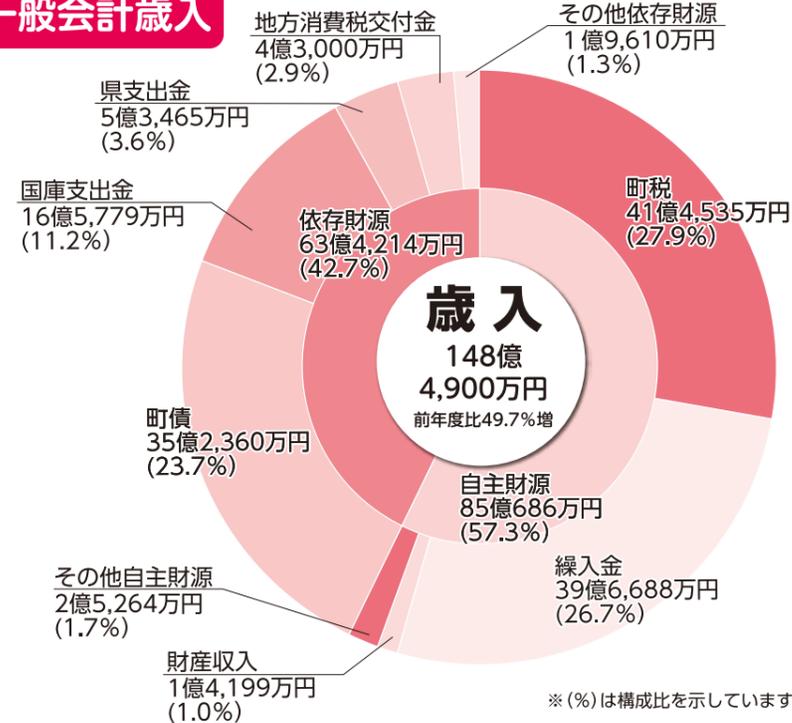
歳出額を町民1人当たり換算すると、1人当たり年間93万6,727円(※R8.3.1人口 15,852人で計算)の経費で町政を運営することとなります。

町の予算は暮らしの中でこんなところに使われています



年間 93万6727円
1人当たり

一般会計歳入



※ (%)は構成比を示しています

町税収入は微増(前年度比1.8%増)

歳入は町民のみさんに負担していただく税金や使用料などの自主財源と、国や県からの負担金や補助金、地方債(町債)などの依存財源に分けられ、自主財源の比率が高いほど、自主的な財政運営ができます。

令和8年度は、自主財源が全体の57.3%を占めており、昨年度から5.7ポイント減少しています。自主財源の中で最も多いのは、町税で41億4,535万円です。町民税は、納税義務者数が増加傾向にあることや堅調な企業業績による増収を見込むものの、固定資産税は、償却資産の減価償却による減収が見込まれ、町税収入全体では、前年度比1.8%増加の見通しとなりました。次いで一般家庭における貯蓄に相当する基金からの繰入金が39億6,688万円となりました。

依存財源は、中学校整備事業や地区公民館長寿命化改修事業等の財源としての町債が35億2,360万円と最も多く、次いで国庫支出金が16億5,779万円となりました。

令和8年度の会計別当初予算額と対前年度比

会計区分	当初予算額(万円)	前年度対比率(%)
一般会計	1,484,900	49.7
特別会計		
国民健康保険特別会計	123,180	△7.7
事業勘定	108,500	△7.5
診療施設勘定	14,680	△9.1
介護保険特別会計	94,060	6.7
後期高齢者医療特別会計	23,530	6.2
小計	240,770	△1.2
企業会計		
水道事業会計	53,510	3.5
水道事業費用	39,064	5.2
資本的支出	14,446	△1.0
下水道事業会計	134,901	△16.8
下水道事業費用	98,888	0.4
資本的支出	36,013	△43.4
小計	188,411	△11.9
合計(一般会計+特別会計+企業会計)	1,914,081	32.0

当初予算額の推移(一般会計)

